

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

生駒市立生駒小学校 教諭 竹田 光陽

1. 単元名 地域の良さを発見し、応援しよう

2. 単元の目標

- ・地域の特色や実態を知り、活性化させるために自分たちに何ができるか考える。(知識・技能)
- ・地域の様子や場所による違いや、人々の生活と関連付けて考え、より良いまちの在り方について自分の考えを表現する。(思考・判断・表現)
- ・自分達が住む地域に対する愛情を育み、地域の一員として自覚をもつ。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本校の校区には、古くから存在する商店街や、コンビニ、百貨店、量販店など様々な店が存在する。本単元では、校区を見つめることから、地域にある様々な場所の立地や働く人の様子、買い物する人の表情や動きに注目することで、「商店街には、なぜかいつもたくさんの人がいる」「なぜ、この商店街に人が集まるのか」という視点をもつことができる。

また、民生児童委員の方々や、児童の登下校時にサポートして頂いている見守り隊の方々による、児童をサポートする体制が整っている。児童の祖父母が、それらの活動に参加していることも多く、児童にとって地域という存在は身近なものとなっている。そのため、児童の「なぜ」に寄り添い、対話しながら学習を深めてやすい環境にあることから、本教材は児童にとって適したものであると考えられる。

これらの教材を通して、「自分たちの住むまち」は、たくさんの方々によって支えられ、住み心地の良さが、守られてきたものであることに気づくことができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、第3学年ということもあり、出かける際は親と行動することが多い。児童が一人で出かけるとなると、友達と約束し、公園で遊ぶことが多いようである。

昨今の児童の安全確保や、社会の情報化進行により、保護者がおつかいを児童だけで行かせる経験が乏しくなりつつある。現に、学級で行った調査では、ほとんどの児童が一人で買い物をした経験がなかった。また、何かを買うとなるときは、自分発信ではなく、保護者発信であることがわかってきた。これらのことから、児童が今まで生きてきた中で、様々な店などに注目したり、地域の中にある人々の思いに気づく経験が乏しいことが予想される。

本学級は、大変意欲的で、好奇心が強く、何事に対しても進んで行動しようとする児童が非常に多い。そのため、このような地域に目を向ける学習の中で、地域の活性化に自らどのように参

画していこうかと考え、発信しようと取り組む姿が期待できる。こうした学習経験を通して、自分たちが住むまちの良さに気づき、気づいたことを発信し、また発信したことを振り返ることで、新しい視点をどんどん生み出す力がつくことを期待している。

(3) 指導観

児童が何気なくこのまちに住んできたことと、まちを愛する方々の気持ちとの差異に気づくことが、児童の学びをさらに加速させることができると考える。児童が当事者意識をもち、このまちを活性化するために、自分たちに何かできないか、地域の方々と何か一緒にする中でみんなが笑顔になり安心して過ごすことができないかを考えたり、発信したりできる良さに気づくことができることを最も大事にしたい。

第3学年という年齢を踏まえると無理もないが、衣食住の決定者の殆ど保護者である。だからこそ、この教材を通して、児童が自身を見つめることができる視点の芽生えが期待できる。これら一連の取組を、「地域盛り上げプロジェクト」という名として、本学年児童のみならず、地域学校協力本部の方々、民生委員の方々、本校教職員や他学年児童、保護者をも巻き込んでいく。様々な年齢層から意見をもらったり、応援されたり、感謝されたりすることで、児童への刺激を生み出したい。その刺激を受ける中で、児童が「自分たちは、地域の人々によって守られていたんだ」ということに気づき、「自分たちが大人になったときに、今度は自分達がこの地域を守っていかなければならないんだ」という視点につなげる計画をしている。

また、本単元の学びの後半では、児童が応援したいと考える人や場所を選び、「作成したポスターをプレゼントする」という活動を計画している。実際にその方々と会って話を聞いたり、自分達の思いを伝えたりする活動を通して、「人と人とのつながりが、このまちに存在し、それこそが昔から続いてきた、この商店街を守り続けていきたい」「商店街の良さを後世に伝え続けていきたい」という、地域の方々の強い思いに気づかせていく。

「自身が行った発信を、保護者と確かめに行く活動」と、「保護者からの振り返りアンケートの結果」から、取組に対する自信や達成感、充足感を児童に身につけさせてあげたいと考えている。この思いの芽生えが、自分たちの住むまちに対する愛情を得ることにつながり、視点をもって生きていこうとする力の育成につながると考えている。

<ESD との関係について>

・本学習で生かせる ESD の視点(見方・考え方)

責任性…地域に根差した商店街には、人々の「大事にしたい」という強い思いがあった。

相互性…人と人が支え合い、存続させようという強い気持ちが、訪れる人々を引き寄せた。

連携性…一人ではなく、そこにいる人々みんなが「今の幸せを守るために、何ができるのか」について考え、意見を出し合って行動してきた。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力:校区の中にある良さ守っていくために、自分たちに何ができるか考える。

コミュニケーションを行う力:校区にある良さを守るために何が必要なのか、求められていることは何なのか出し合い、話し合う。

他者と協力する態度:地域の方の強い思いを知り、自分ができるとは何かを考えようとする。

進んで参加する態度:友達と考えを共有し、校区にある良さを、校区に住む人だけではなく、様々な人にアピールしようとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正:小学生である自分たちが、校区を知る中で、思いを伝えたり、発信したりすることにより、感謝されたり結果が出ることに達成感を感じる。

・達成が期待される SDGs

目標8 働き甲斐も経済成長も

目標11 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
① 地域の特色や実態を知り、地域を活性化するために自分に何ができるか考えられる。	① 地域の様子や場所による違いや、人々の生活と関連付けて考えられる。 ② より良いまちの在り方について自分の考えを表現することができる。	① 自分達が住む地域に対する愛情を育み、地域の一員として自覚をもとうとする。

5. 単元の指導計画(全18時間目)

主な学習活動	学習への支援	◇評価・備考
1.自分たちが住む校区を知ろう。 ・大きな商店街がある。 ・駅があり、電車やバスを利用する人が多い。	・生駒市には、12の小学校区があることを紹介し、それぞれの特徴を航空地図や町の様子が載った写真を見せながら、校区間の違いに気づかせる。	ア①
2.自分たちの校区の「なぜ？」を出し合おう。 ・なぜ、商店街があるのだろう。 ・なぜ、駅の近くにお店が多いのだろう。	・タブレットで調べるだけでなく、「親・親戚、地域の人にインタビューする必要性」に気づかせる。 ・まちの歴史に着目させる。 ・校区探検を通して、地域の人や場所の様子を知る。	イ①
3.昔からある商店街について調べる。	・社会科「店で働く人々の仕事」での	ウ①

<p>・商店街を守ってきた方々の平均年齢が高いことがわかった。</p> <p>・近鉄百貨店やチェーン店、個人経営の店など、様々な店が存在している。</p>	<p>買い物調べや、駅前での街頭インタビューを通して、地域の人が店をどのような目的でしているのか調査させる。</p> <p>・大通りのみならず、横丁や路地を通ることで、同じ場所でも見える風景が違うことに気づかせる。</p>	
<p>4. 商店街に行ってみよう。(校区探検)</p>	<p>・買い物をする人々の表情や言動を観察させる。</p> <p>(見る視点や家族構成、商売している人の様子)</p>	ウ①
<p>5. 地域に根ざして仕事を続けてきた方の思いを知ろう。</p>	<p>・どのような思いで仕事をしているのかだけではなく、「困っていること」「不安なこと」についても話をしてもらおう。</p> <p>(地域の未来性について)</p>	
<p>6. 自分たちにできることを考えよう。</p> <p>・ポスターで良さを伝えたい。</p> <p>・Google の Canva アプリケーションを使用して、応援したい場所や人の良さを表したい。</p>	<p>・商店街の人々から思いを受け継ぐ一人の人間として、主に国語科「ポスターを読もう」と連動し、今まで学習してきたことを生かしてできることを考えさせる。</p>	イ①・ウ①
<p>7. 作ったポスターを、応援したい場所や人に届けよう。</p>	<p>・ポスターを貼れるかどうかアポ取り電話をさせる。応援したい場所や人に、自分の応援したい気持ちを伝えながら、ポスターを掲示させる。</p>	イ②
<p>8. 自分たちの取り組みを発信しよう。</p>	<p>・全校朝の会を使い、自分たちの取組をプレゼンさせ、発信させる。</p>	イ②
<p>9. 地域盛り上げプロジェクトを振り返ろう。</p>	<p>・協力していただいた方々や、本校教職員、全校児童を対象としたアンケート結果から、自分たちがしてきた取組が意味のあるものであったかどうか振り返らせる。</p>	ウ①